



2020年5月25日

各位

会社名 株式会社きずなホールディングス
 代表者名 代表取締役社長兼グループCEO
 中道康彰
 (コード番号: 7086 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役兼CFO 関本彰大
 (TEL. 03-5427-6432)

2021年5月期連結業績予想に関するお知らせ

2021年5月期(2020年6月1日~2021年5月31日、以下「来期」)の業績予想について、下記の通りお知らせいたします。

1. 来期の連結業績予想数値と、当期の業績予想数値(2020年5月25日修正数値)の差異

(単位: 百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的1株当 たり当期利益
当期業績予想(A) (2020年5月期)	7,637	453	303	197	197	57円83銭
来期業績予想(B) (2021年5月期)	8,400	600	460	300	300	87円10銭
増減額(B-A)	763	147	157	103	103	29円27銭
増減率(%)	10.0	32.5	51.8	52.3	52.3	50.6
(ご参考) 2019年5月期実績	7,193	813	616	406	406	119円75銭

2. 業績予想数値の前提条件

(1) 売上収益

新型コロナウイルス感染症の問題が顕在化した本年3月以降(2020年5月期第4四半期)は、不特定多数の参列者が集まる大規模な葬儀から、特定少数の近親者のみが集う当社グループが主軸とする家族葬へのシフトがみられ、当社グループの葬儀件数が増加しております。一方で家族葬においてさえも参列者数の減少とそれに伴う料理・返礼品等の売上減少により、葬儀単価の下落傾向が続いております。

緊急事態宣言終了後も、屋内行事の開催自粛や規模縮小が当面続くと考えられることから、大規模な葬儀ではなく「新しい生活様式」を踏まえた少人数の家族葬を選好する傾向は、少なくとも本年11月末(2021年5月期第2四半期)までは続いていくものと想定しております。

2020年5月期(以下「当期」)の葬儀件数は7,861件となる見込ですが、高齢化の進展による死亡数の増加や今期の新規7ホールの通年寄与に加えて、家族葬選好の継続や来期計画の新規15ホールの増加分も考慮し、来期は9,068件(当期比15.4%増)と見込んでおります。また当期の葬儀単価は902千円となる見込ですが、葬儀の小規模化・簡素化の継続を考慮し、来期は869千円(当期比3.7%減)と見込んでおります。葬儀単価については来期第1四半期から第3四半期にかけて徐々に回復すると想定しており、第1四半期は832千円、第2四半期は842千円、第3四半期以降は898千円とそれぞれ見込んでおります。

これらの結果、来期の連結売上収益は8,400百万円(当期比10.0%増)と予想しております。

(2) 営業利益

売上収益の増加に比例した仕入の増加に加え、15 ホールの新規出店に伴う初期費用や減価償却費、また葬儀部門の人員増強に伴う労務費の増加、マーケティング部門等の人員増強に伴う人件費の増加により、営業利益は 600 百万円（当期比 32.5%増）を予想しております。

(3) 税引前利益・親会社の所有者に帰属する当期利益

金融収益については当期と同水準、金融費用については借入金の減少とリース負債の増加を考慮して若干の低減を見込んでおります。

以上により、2021 年 5 月期の税引前利益は 460 百万円（当期比 51.8%増）、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益は 300 百万円（当期比 52.3%増）と、それぞれ予想しております。

【業績予想に関する留意事項】

2021 年 5 月期の連結業績予想の詳細につきましては、2020 年 7 月 15 日に開示予定の 2020 年 5 月期決算短信において、改めてご説明いたします。

なお、本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述については、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

以上